

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23660058

研究課題名(和文) 妊娠期の分娩恐怖感(Fear of labor)の尺度開発とその防御因子の探索

研究課題名(英文) Development of the Japanese version of the fear of childbirth scale, and the relation to psychosocial factors among Japanese pregnant women.

研究代表者

春名 めぐみ(Haruna, Megumi)

東京大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：00332601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：分娩恐怖感を測る尺度の作成と、妊娠期の分娩恐怖感に関わる心理社会的要因を明らかにすることを目的とした。スウェーデン語版 Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire(W-DEQ) version A(産前用)、version B(産後用)を日本語に翻訳し、「出産への思い質問票」を作成し、妥当性・信頼性を検証した。さらに都内3か所の産科医療施設の妊婦に対し、妊娠末期、産後3日、産後1か月に自記式質問紙を配布した。出産恐怖感の関連要因には、低い首尾一貫感覚、強い不安特性があり、ストレス耐性の低い女性に対し出産準備援助の必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop the Japanese scale for measuring fear of childbirth, and to explore psychosocial factors for fear of childbirth among Japanese pregnant women. First, we translated the Swedish Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire (W-DEQ) version A (which assesses antenatal fear of childbirth) and version B (which assesses postnatal fear of childbirth) into Japanese. The translated W-DEQ versions were confirmed their validity and reliability. Secondly, we solicited Japanese pregnant women who were at three obstetrical facilities for answering self-administered questionnaires at late pregnancy, three days and one month postpartum. The results revealed that individual's vulnerability towards stressful events such as a lower sense of coherence and a higher anxiety trait were associated with fear of childbirth.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：分娩恐怖感 尺度開発 心理社会的要因 妊娠

1. 研究開始当初の背景

妊婦は出産に対して「楽しみ」等の肯定的な感情を持つ一方「怖い」等の否定的な感情を抱く。近年、出産に対する否定的な感情の中でも、妊婦が出産に対して抱く「分娩恐怖感 (Fear of labor)」が注目されている (Hall et al., 2009; Waldenström et al, 2006)。

分娩恐怖感の強い女性 (15~20%) は、回避的に帝王切開や麻酔分娩を選択しやすく、医療処置や麻酔薬の副作用による身体的リスクの増加が懸念されている (Laussen et al, 2008; Niemnen et al, 2009)。さらに分娩恐怖感の低い女性と比べると出産時に産痛をより強く訴え、分娩体験を否定的に受けとめやすく (Zar et al., 2001; Waldenström et al, 2006)、産後のトラウマ症状を抱きやすいことが報告されている (Garthus-Niegel et al, 2013)。従って、助産師は妊娠期から恐怖感を軽減するような心理的支援を検討する必要がある。

しかしながら、本邦において分娩への恐怖感を測定できる尺度はない。さらに、分娩恐怖感に関連する心理社会的要因についても明らかではない。

2. 研究の目的

本研究は以下の2点を目的とし、実施した。

目的 1: 分娩恐怖感を測る日本語版尺度を作成し、妥当性・信頼性を検証する (研究 1)

目的 2: 開発した尺度を用いて妊娠期の分娩恐怖感に関わる心理社会的要因を明らかにする (研究 2)

3. 研究の方法

1) 分娩恐怖感の測定尺度の作成と妥当性、信頼性の検証 (研究 1)

(1) 期間

平成 23 年 4 月から 11 月

(2) 調査施設

都内産科医療施設 (1 か所)

(3) 手順

第 1 に分娩恐怖感を測る尺度として Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire (W-DEQ) version A (産前用)、version B (産後用) (スウェーデン語原版: Wijma et al, 1998) を選定した。原作者の許可を得た後、日本語に順翻訳、専門家による内容の検討、さらに別の翻訳者によるスウェーデン語への逆翻訳など定められた手順に従い、「出産への思い質問票 (W-DEQ 日本語版)」を作成した。さらに、妥当性、信頼性を検証するため都内産科医療施設に受診中の妊婦 (n = 240) に対し、妊娠 37 週と産後 3 日目に研究者が無記名自記式質問紙調査を直接配布、回答後、直接回収した。再テスト信頼性を確認するため、対象妊婦 240 名中内 100 名には妊娠 38 週にも質問紙の回答を依頼した。

2) 妊娠期の分娩恐怖感に関わる心理社会的要因の検討 (研究 2)

(1) 期間

平成 24 年 4 月から平成 26 年 4 月

(2) 調査施設

都内産科医療施設 (3 か所)

(3) 手順

第 1 に平成 24 年 9 月、ノルウェーの Vestfold 大学を訪問し、共同研究者である Severinsson 教授らと研究ミーティングを行った。両国の周産期に関わる健康問題や研究に関する意見交換と、研究 2 「妊娠期の分娩恐怖感に関わる心理社会的要因の検討」に関する質問紙調査内容について検討した。帰国後、質問紙調査の実施に向けて、都内複数の産科医療施設との交渉など具体的な準備を進めた。

平成 25 年 4 月から平成 26 年 4 月の間、都内 3 か所の産科医療施設に受診中の妊婦 (n = 470) に対し、妊娠後期 (32 週以降)、産後 3 日目、産後 1 か月目に無記名自記式

質問紙を配布した。妊娠後期（32週以降）産後3日目は研究者が直接配布及び回収し、産後1か月頃、質問紙を対象者自宅に郵送し、回答後返送を依頼した。

（4）倫理的配慮

本研究は、東京大学医学部倫理委員会及び、調査対象施設の倫理委員会の承認を得て行った。

4. 研究成果

1) 分娩恐怖感の測定尺度の作成と妥当性、信頼性の検証（研究1）

開発した尺度「出産への思い質問票（W-DEQ 日本語版）」は version A（産前用） version B（産後用）共に「出産への恐れ（Fear of childbirth）」、「前向きな予測の欠如（Lack of positive anticipation）」、「孤独感への恐れ（Isolation）」、「母子の危険への恐れ（Riskiness）」の4因子が抽出され、因子構造はオリジナルスウェーデン語版、英語版とも一致し、因子妥当性が確認された（Takegata et al, 2013）。基準関連妥当性として「出産への思い質問票（W-DEQ 日本語版）」 version A では、出産への不安に関する Prenatal Self Evaluation Questionnaire（JPSEQ）日本語版下位尺度（岡山ら 2002）とは高い正の相関を示し、一般的不安に関する Hospital Anxiety and depression Scale（HADS）下位尺度「不安」（北村 1993）とは中程度の相関を示し、出産の自己効力感を測定する Childbirth Self efficacy Scale（CBSSES）（亀田ら 2005）とは高い負の相関を示した（Takegata et al, 2013）。「出産への思い質問票（W-DEQ 日本語版）」 version B（産後用）は HADS 下位尺度「不安」と中程度の相関を示している。さらに再テスト信頼性として Version A（産後用）の妊娠37週と妊娠38週の尺度得点の級内相関係数は高度の一致を示した（Takegata et al, 2013）。内的整合性として Version A（産前用）と

Version B（産後用）共にクロンバックの値は0.7以上と基準値を満たした。

このことにより尺度の高い信頼性は確認されたといえる。

2) 妊娠期の分娩恐怖感に関わる心理社会的要因の検討（研究2）

分娩恐怖感は、経産婦よりも初産婦で高い値を示した。分娩恐怖感の関連要因として低い首尾一貫感覚（Sense of coherence）（Antonovsky 1987）、強い不安特性が明らかとなった（Takegata et al, 2014）。従って、ストレス耐性の低い女性は分娩に対して恐怖感を抱きやすいことから、適切な情報提供や出産準備援助の必要性が示唆される。経産婦ではこのようなストレス耐性の低い女性の他、過去の分娩に対する低い満足感が関連していた。経産婦においては、過去の分娩に対するバースレビューなど妊娠中からの精神的援助が必要であることが示唆される。今後さらなる解析を進め、臨床現場において助産師が提供するより良いケアの在り方を検討していく予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- 1) Takegata, M., Haruna, M., Matsuzaki, M., Shiraishi, M., Okano, T. & Severinsson, E. (2014). Antenatal fear of childbirth and sense of coherence among healthy pregnant women in Japan: A cross-sectional study. *Archives Women's Mental Health*, (in press). [査読あり]
- 2) Takegata, M., Haruna, M., Matsuzaki, M., Shiraishi, M., Murayama, R., Okano, T. & Severinsson, E. (2013). Translation and validation of the Japanese version of the Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire. *Nursing & Health Science*, 15(3), 326-332. [査読あり]

〔学会発表〕(計 3 件)

- 1) Takegata, M., Haruna, M., Matsuzaki, M., Shiraiishi, M., Okano, T., & Severinsson, E. Sense of coherence during perinatal period and its influence on acute traumatic stress symptoms following childbirth. Optimising Across Europe Conference 2014. Vrije Universiteit Brussel, Brussels, Belgian, April 9-10, 2014.
- 2) 竹形みずき, 春名めぐみ, 中村真奈美, 松崎政代, 白石三恵, 岡野禎治, Elisabeth Severinsson. 妊娠期の出産恐怖感が出産体験及び産後のトラウマ症状に及ぼす影響(一般演題口頭発表). 第10回周産期メンタルヘルス研究会学術集会. 日本赤十字看護大学内ホール(東京). 2013年11月9-10日.
- 3) Haruna, M., & Takegata, M. Fear of childbirth in Japan. 17th International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynaecology (ISPOG) (Symposist Oral presentation). Langenbeck-Virchow-Haus, Berlin, Germany, May 22-24, 2013.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

- (1) 研究代表者 春名めぐみ (HARUNA, Megumi)
東京大学・医学系研究科・准教授
研究者番号：00332601
- (2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 村山 陵子 (MURAYAMA, Ryoko)

東京大学・医学系研究科・特任准教授
研究者番号：10279854

連携研究者 松崎 政代 (MATSUZAKI, Masayo)

東京大学・医学系研究科・講師
研究者番号：40547824